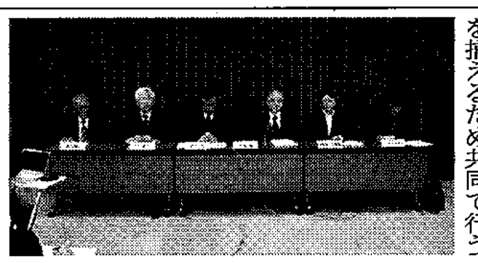
倫理教育徹底など

関連4団体が"科学研究"で声明

日本学術会議（大西 隆会長）、国立大学協会（里見 進会長）、公立大学協会（木苗直秀会長）、日本私立大学団体連合会（清家 篤会長）は共同で、昨年十二月十一日、倫理教育の徹底などを含めた科学研究の健全性向上のための声明を出した。

この声明は、研究費の不正使用やデータのねつ造や改ざんなど、昨今の科学界で話題になった一連の研究不正活動における不正行為に対する社会の関心の高まりを背景に、これらに対する態度を国内外に明確に示すことが目的で、各研究領域の科学者コミュニティである学術会議、ほとんどの研究者が所属する大学の各協会が対策の足並みを揃えるため共同で行うもの。具体的には次のことに取り組むとしている。



一、大学等の研究機関は、世界における研究活動の中心の一つとしての役割をさらに高めていくため、研究活動における不正行為、研究費の不正使用を許さず、世界の範たる健全な研究を遂行する。もし疑惑が生じた場合には、第三者の協力を得つつ、組織の責任として、適切な方法で迅速・的確に対処する。

二、研究活動における不正行為、研究費の不正使用の防止には予防的な措置が不可欠であり、大学等の研究機関は、すべての研究者が健全な研究活動を実践できるよう、広く研究の倫理を含めて、適切な学修プログラムの履修を義務付けるとともに、これらが実効性あるよう、継続的に評価・審議していく。

三、大学等の研究機関及び日本学術会議は、我が国の科学者コミュニティの主要な一員として、研究活動における不正行為、研究費の不正使用に対する厳正な対処・予防のための学習プログラムの開発と普及に向けて相互に協力し、我が国の科学研究に対する国内外の信頼を高めるために全力で取り組む。

なお、海外への情報発信の意味もあるので、英文も同時に作成されている。

会見に臨んだ黒田壽二日本私立大学団体連合会副会長は、「特に倫理教育が重要になる。文部科学省からは「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」が出されている。各大学においては、このガイドラインをベースにして各大学で取り組まなければならないが、その支援を各協会が行っていければ」と述べた。研究倫理教育プログラムは、日本学術振興会や日本学術会議等でも作成していく。今後は研究領域ごとにカスタマイズしていく必要もある。

"主体性"どう引き出す

FSP研究会　企業と大学のコラボで

一般社団法人Future Skills Project研究会（FSP研究会、理事長＝安西祐一郎日本学術振興会理事長）は、昨年十一月、東京都千代田区の明治大学において「産学協同就業力育成シンポジウム二〇一四．未来を創る『主体的な学び』を実践する」を開催した。四年間にわたって続けてきた「主体性」を引きだす同研究会の講座の成果について、過去の講座受講生も交え話し合った。

シンポジウムの様子

同研究会では、「社会で活躍できる人材をどのように育成すべきか」をテーマに、問題意識を共有した六企業、五大学が集まり二〇一〇年七月に発足。昨今、若手社員や大学生に不足しているといわれる「主体性」を引きだすことを目的にした「課題解決型授業」を設計し、大学の単位の取れる正課授業として実践。二〇一一年からこれまでに二〇〇〇人を上回る学生がこの講座を履修している。

シンポジウムの冒頭、安西理事長は、「学生が自分で考え、主体性を身につけ、自らの人生を自分で創っていくことができるか、この問題意識から議論が始まった。最も重要なことは主体性を育む学修環境作りが必要である」と述べた。

次いで、同研究会が開発した「FSP講座」に関する報告が行われた。講座は原則一四コマ。学生は五～七人でチームを組み、前半と後半で二つの企業から出された企業が抱えるリアルな課題に取り組むというもの。FSP講座の最大の特徴は、原則として一年生前期に実施することだ。このことによって自分に何が足りないのかという「気付き」を入学直後にもたらし、大学での学びの重要性を理解し、大学四年間の学びへ主体的に臨むことを狙いとしている。

この四年間の実践から、安西理事長は「研究会は学びの原動力は主体性であることを発見した。主体的な学びを身につけた人間こそが未来を創ることができる」と表明。来年度、全国約二〇大学と約四〇企業が連携して各大学で講座を運営し、活動がさらに拡大していくこと、高校教育関係者からも注目を集めており、高校用の講座も検討していることを明かした。

（過去の研究会活動・講座の詳細は研究会ウェブサイトにて：www.benesse.co.jp/univ/fsp）。

教員がまず"楽しく学ぶ"

九産大教育フォーラム　アクティブ・ラーナー育む

九州産業大学の教務部は、昨年十二月六日に、第四回大学教育フォーラム「アクティブ・ラーナーを育むin九州産業大学～学修成果は、楽しい学びから～」を開催し、学生、教職員及び大学関係者、一三四名が参加した。

大学にできることなど議論

今回のフォーラムでは、「楽しい学び」をキーワードに、全国の大学で研修・ワークショップを開催している樋栄ひかる氏と、教育効果を促進するためのワーク・ライフバランスなどの講演実績のある松久晃士氏が基調講演を行った。

樋栄氏は、「六ハッツ思考法（考える側面を六つに分けて物事を考えていこうという思考法）」を用いて、ワークショップを交えながら、「学生たちをアクティブ・ラーナーに変える授業方法」について紹介した上で、「授業を行う先生自らが好奇心にあふれ、学ぶ姿が、アクティブ・ラーナーを育むことにつながる」と呼びかけた。

松久氏は「教育効果の向上を促進するためのワーク・ライフバランス」をテーマに、社会全体で働き方の改革が求められる中で、今後求められるビジネスパーソン像や、教員が取り組むことについて講話があった。

その後、産学連携授業を通して能動的な人材育成を展開している本学基礎教育センターの白井章詞講師が、二つの授業事例を発表。企業と連携して企画や店舗の運営などに取り組む中で、学生に主体性や思考力、課題に挑戦する力などが身に付いたことを報告した。

最後に、パネルディスカッションでは、樋栄氏、上和田茂副学長、黒田光太郎基礎教育センター特任教授、白井講師がパネリスト、闇間理経営学部教授をコーディネーターとして、アクティブ・ラーナーの育て方や、そのために大学がすべきことなどについて活発な議論が展開された。

各地で事務研究協議会

日本語教育振興協会

日本語教育振興協会は、平成二十六年度日本語教育機関事務研究協議会を全国各地で開催する。

このたびは諸外国での募集活動や留学生受入れ、ベトナム及びネパールからの留学生増加への対応等の協議及び駐日ベトナム大使館参事官による講演、関連省庁からの説明を行う予定。

（東日本地区）一月二十三日、国立オリンピック記念青少年総合センター

（西日本地区）一月二十七日、メルパルク京都

参加費は四〇〇〇円。詳細・申込は同協会ウェブサイト（www.nisshinkyo.org）問い合わせは同協会審査部（〇三―五三〇四―七八一五）。

連携は力なり！ ②

大学コンソーシアムと地方創生

「ボランティアの時間が短いと思った。一週間やってもいいんじゃないかと思う」

平成二十六年九月に実

だった。ワークショップなどでも同様で、受講生が「時間が足らなかった」と感じたら、有意義な時間が過ごせたことの

いる「地域を担う中核的人材育成事業」（文部科学省「大学等における地域復興のためのセンター的機能整備事業」）の一つで、「危機管理と復興」共々、震災復興特別講義として平成二十四年から開講している。

特別講義としての特色は以下の三つ。まず、これら二つの科目は、復興を担う人材育成を目的として、新たに開設された

アとリーダーシップ」の講義テーマは、コミュニケーショントレーニング、ボランティア活動、組織マネジメント、リーダーシップ、失敗学で、「危機管理と復興」の講義テーマは、危機管理、防災、地域コミュニティ再生、都市計画、メンタルヘルスケアとなった。

講義の骨子が決まり、担当者の選定を考えた途

の授業担当をお願いするわけにはいかない。

ならば、全国から適任者を招請してオムニバス方式で授業を組み立てようということになった。

とはいえ、それぞれのテーマごとの専門家をどのようにして探すのか、うまく見つかったとして、岩手まで授業に来てくれるのか、講師給・謝金など、超えねばならないハ

ボランティア教員の募集は、同協議会にお願いして、加盟コンソーシアムに周知して頂いた。

同協議会の事務局が置かれている大学コンソーシアム京都へ、計画の説明と募集文書の送付のお願いに行ったのが発災年の十一月二十四日で、いわてコンソには、最速で十一月二十八日付のボランティア受諾届が届き、

市大）一四名（十いわてコンソから一名）の担当者名が入ったスケジュール表の原案ができていた。

申し出て頂いた先生方は、震災復興へのお手伝いをしたいとは思っていたものの、その手段が見出せないでいた折りに、いわてコンソの窮状に接し、これならできると即決したとのことだった。

ボランティア教員を募

揃う結果となった。

いわてコンソでは、この取り組みを周知し、後世に伝えるため、平成二十四年度の講義をもとに、『復興は人づくりから～全国大学ボランティア教員一五名による特別講義～』（平成二十五年十月十日発行）を刊行して、二十五年度の後期「危機管理と復興」から受講生に教科書として配付（いわてコンソのサイ

槌町でのボランティア実習（菜の花プロジェクトのお手伝い）を実施した。合宿の前後二日間は、盛岡で事前指導とまとめを行った。

合宿を含め、全日程の参加を履修条件にしたにもかかわらず、四連携校（岩手大、岩手県立大、盛岡大、一関高専）から三六名が履修し、例年にも増す受講者数となった。加えて、同協議会か

同協議会を通じた広域の連携があり得ること、今後もこのネットワークを活用した新たな試みが可能であることは間違いない。

いわてコンソの復興への取り組み「地域を担う中核的人材育成事業」は、大学進学事業、中核的人材育成事業、地域貢献事業の三本柱を軸に展開している。今回取り上げた震災復興特別講義

、感動のひととき。

BANQUET 宴会・会議

ACCOMMODATION 宿泊

祝宴プラン　Celebratory Banquet Plans

長寿祝、結婚記念祝、叙勲・褒章受章祝など、特別な日のお祝いに

おひとりさま 10,000円

お料理・お飲み物・装花・室料・消費税・サービス料込

特典 ①乾杯用スパークリングワインサービス ②ご本人またはご夫妻のご宿泊割引優待 ③10名様以上で六切り写真1カットサービス